

平成29年度 目標に対する自己評価、校務運営上の反省点と次年度への改善点や提言

※ 自己評価の欄は、各分掌ごとの目標、重点努力事項に関する成果を次のA～Eで評価する。

- A 十分成果をあげた(目標かそれ以上を達成)      D 成果をあげようと努めた(努力だけはした)  
 B 概ね成果をあげた(目標まであと僅か)      E 取り組むことができなかった  
 C やや成果をあげた(目標に近づいてはいるが道半ば)

分掌	目標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
1 年 部	1 基本的な生活習慣の確立	B	ほとんどの生徒は遅刻もせず、落ち着いた朝読書、学習に取り組んでいるが、基本的な生活習慣が身につけていない生徒が一部にいる。根気強く、継続的に指導をしていきたい。 入学時に比べると挨拶をきちんとできる生徒が多くなった。職員室への入退室時などもたくさんの先生方に指導を受け改善されてきた。	学校生活に慣れてくると同時に気が緩む生徒が増加してくる。問題行動に発展しないように生徒の変化に注意する。 校則の遵守、挨拶の励行、整容面など個人差がある。 スマートフォンの学校での取扱いで数名の違反があったが、使用方法全般に継続的に指導が必要。
	2 意欲的に学習し、自ら学ぶ生徒の育成	C	授業中はきちんと学習に取り組んでいる様子が見える。しかし、家庭学習の時間が明らかに不足していた。 各学科や各教科の協力を得ることにより資格取得への意識が高まった。	家庭での学習習慣はまだ身につけていない生徒がいる。各教科等と連携し、定期的な課題を課すなどして、家庭学習の習慣を身につけさせる。
	3 進路目標の早期設定	B	外部講師を招いた進路ガイダンスとキャリア講演会、適性検査、学校見学、職場見学など生徒が進路について考えるための機会が多く作ることができたと思う。 公務員希望者は朝補習、模試、講座への参加、4年制大学希望者は長期休業中の補習、進学模試への参加など、進路に対して目的を持って学習に取り組んでいる。	進路目標を持たせると同時に、コミュニケーション能力の育成にも力を入れていきたい。 2年次からのコース選択を意識した進路指導が早い段階から必要である。

分掌	目標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
2 年 部	1. 基本的な生活習慣の確立	C	・元気の挨拶や、自分の考えを自分の言葉で話ができる生徒が少ないと感じた。 ・自分勝手な行動をする生徒がおり残念であった。集団生活を通して、他人を思いやる気持ちとコミュニケーション能力を身に付けてもらいたい。	・社会人になる心構えとして、自分の言動や行動に責任を持たせる。
	2. 意欲的な学習態度の育成	C	・調査結果より、クラス平均点は非常に良好であるが成績下位者と上位者の差が大きい。欠点保有者に対する指導がもっと必要である。 ・各科の資格試験やSPI対策を朝学習で行い、自学自習の習慣を身につけさせたかったが、結果は今ひとつと感じる。	・自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。

	3. 進路希望の実現に向け、主体的に取り組む	C	・まだまだ進路意識が足りない。進路実現に向けた行動が未熟である。家庭での話し合いが足りない生徒が多いようだ。	・進路実現に向け、生徒個々が主体的に活動できるようにする。
--	------------------------	---	--	-------------------------------

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
3 年 部	1 進路希望の実現	B	生徒に対して早期の情報提供を心掛けてきた。まだ数人の未決定者がいるが、全職員の協力に感謝している。	
	2 自ら学ぶ姿勢の伸長	C	前半はまずまずだったが、後半からは学習意欲を失った生徒への対応に苦慮し、その解決策を見出すことができなかった。	
	3 主体性をもった行動	C	挨拶の励行や教室環境の整備を目標の一つとして指導してきた。全体の場での返事など、目標に到達することができなかった。	

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
総 務 部	1 公務運営の円滑化	B	他行事の関係で校内問題検討委員会を開くことができない月もあったが、分掌間で情報交換が図られていたと感じる。	検討する内容にもよるが、分掌間の情報交換の場となるため、他行事との兼ね合いを考慮しながら委員会を開く。  P T A会長をはじめ役員は協力的で良い関係を維持できている。分掌間の連携を密にし、保護者が学校に気軽に足を運べる雰囲気作りに努める。
	2 各種関係機関・団体との相互理解を深めた活動の充実	B	実習等の授業参観を毎年計画しているが参観者は少ない。しかし、都合がつかず参観できない方もいると思うので、引き続き機会を設けるようにしたい。 他校P T A役員と合同で大曲駅前において「声かけ運動」を実施した。	

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
教務部	1 生徒の学力向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の学力不足者に対して、国・数・英の放課後補習を月曜日に実施して4年目となる。担当の先生には負担をかけているが、学習に対する意識付けや、定期考査の成績に、すこしずつ良い結果が現れてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活の兼ね合いもあるので難しいが、来年度も継続したい。勉強をする習慣をつけさせることは、必要だと考える。</li> <li>学力・学習状況調査実施2年目となり、さらなる分析・活用が必要である。</li> </ul>
	2 教育課程の検討・編成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、県高等学校教育課程研究協議会はなし。来年度の教育課程に変更はない。次期学習指導要領改訂については、職員に情報提供のみ行い、各教科・学科での検討となっている。</li> </ul> <p>(指導要録の電子化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の第1学年から実施できるように準備している。増加単位、学業成績証明書、単位修得証明書に修正すべき点がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期学習指導要領改訂について、職員に詳しい情報提供を行い、その学習会を開催する。</li> <li>技能審査による増加単位について、申請の仕方、時期を検討する必要がある。</li> <li>電子化に伴い、要録の書き方の講習会を実施する。</li> </ul>
	3 教務内規・様式・文書・学校紹介プレゼン等の見直し	B	<p>(成績処理システム)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンテナンスしながら成績処理を実施した。依然、空欄と零の扱いに問題がある。</li> </ul> <p>(内規)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公欠や出席停止について、今年度の実績データを集めている。</li> </ul> <p>(体験入学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から、在校生登校時間帯と中学生来校時間帯をスライドさせ、野球部員には駐車場の誘導も協力してもらい、スムーズに実施することができた。</li> </ul> <p>(入試業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から、前期選抜の検査日に在校生を登校させないこととし、検査会場を教室等に変更した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムを更新する際には、公欠欄を増設するべきである。</li> <li>来年度、他校の事例を参考にして、公欠や出停について、内内規を提案したい。</li> <li>次年度以降も、登校時間帯をずらしで行いたい。</li> </ul>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
生徒指導部	1 自主的・自律的で充実した生活実践への支援	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を意識して、校門・交通・街頭・5Sの指導を実施した。</li> <li>校内での携帯、スマホの取り扱い方について預かる指導を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内での携帯、スマホの取り扱い方については継続指導が必要である。回収方法については、検討する必要がある。</li> </ul>
	2 健康で安全・安心な学校生活をおくるために必要な環境整備	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツイッター等のSNSでは多くの生徒が情報を公開している。問題となることがないように継続的な指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSについて引き続き継続的な指導が必要である。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容検査で、頭髪面で気になるところが出てきている。保護者アンケートで基準の違いがあるとの指摘があった。</li> <li>・全教員による校門指導は整然と行われている。朝の生徒の実態を把握し、生徒の変化や、悩みの解消や気持ちの安定化等に効果を期待する。</li> <li>・自転車通学指導では、自転車検査を実施した。駐輪場からの自転車盗難が数件あったが、近くのコンビニで発見されている。自転車事故については本校では1件あった。</li> <li>・現金、財布の盗難が数件あった。発見はできなかったが貴重品は身につけしっかり管理することが必要である。</li> <li>・警察による街頭犯罪防止モデル校・自転車安全利用モデル校に指定され、大きな抑止力となった。</li> <li>・いじめの事案があった。出てきていない問題もある。その対策を検討していかなければいけない。</li> </ul>	<p>整容検査の実施、基準について検討する必要がある。</p> <p>教室内の整理整頓をしっかりとてい手立ての検討。(私物の管理) 貴重品の取り扱いについても継続的に指導が必要である。</p>
--	--	--	--

分掌	目標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
特別活動部	<p>1 生徒会活動の活性化 1) 生徒会行事の活性化により、生徒の参加意識と満足感を高める。</p> <p>2 部活動の活性化 2) 部活動は、上位の成績を目指すとともに、豊かな人格の育成を図る。 3) 部活動の活動状況を広報する。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>・今年度は活動の見直しから部活動紹介を全校行事に改めたり、生徒間どうしの活動内容の周知を深めたり、活動できる場を増やすことができた。</p> <p>・校外活動においても、学校の代表として多くの場面で活躍することができた。</p> <p>・新聞(学校)作成では、委員の生徒が多く参加し自分の責務を果たした。</p> <p>・学校祭の行事などにおいて、生徒会を中心に主体的に取り組むことができた。</p> <p>・生徒会執行部は、意見を出し合い実行することができた。</p> <p>・部活動の活動状況は、生徒会報やHPで広報することができた。</p> <p>・部活動の活躍を看板に掲示したが、場所の変更により1回しかできなかった。</p> <p>・大会成績を地域に知らせる看板の場所を移動させ、広報の効果を高めることができた。</p> <p>・様々な生徒が増えその対応に苦心した。</p> <p>・部室の配置を見直し、活動のための安心・安全の確保に努めた。</p>	<p>・今後も行事を精選して、生徒の活動の場を増やしたい。</p> <p>・今後も新聞作成には多くの生徒を参加させたい。</p> <p>・期末考査直後の1週間の活用を考え、行事の実施時期を検討する。</p> <p>・生徒会行事の満足感を高めるため、表彰の規定や内容について改善していく。</p> <p>・部活動の戦績の掲示を2回行いたい。</p> <p>・部活動担当だけでなく、関係各所の人たちにも意欲的に関わってもらいたいと思う。</p> <p>・部活動の予算(生徒会、特振、学校運営)の適正化に努め、努力目標達成のために必要な予算の調整を行う。</p> <p>・生徒数、予算、地域の実態などを考慮し、部活動や同好会の数を適正化する。</p> <p>・躍進の日の趣旨・目標に基づいて、各部が効率的・効果的な活動ができるよう支援する。</p> <p>・部活動の成績を紹介する看板は外部業者に依頼する。</p>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
進路指導部	1 正しい職業観のもと、適性や能力に応じた進路設計ができる生徒を育成する。	B	各学年部での進路ガイダンスや面談等を通して進路意識を向上させ、自己理解を深めた上で具体的に進路を考える姿勢を育てることができた。補習や模試への参加状況も良好だった。	3年間を見通した進路ガイダンスや適性検査、模擬試験、朝自習、補習の計画が必要である。
	2 各分野の進路情報を迅速かつ的確に提供し、進路意識の高揚を図る。	B	昨年度以上の企業から求人があり、対応するスタッフの不足やデータ処理の遅れが出るなどの問題があった。情報誌等は精選して生徒に提供できた。	部内分掌とスタッフの適正な配置を検討する必要がある。
	3 各科・学年部との連携を密にし、進路希望の早期実現につなげる。	A	就職については、各科・学年と連携をとり、ほぼ希望の進路を実現できた。不合格者についても二次募集で対応し内定につなげることができた。 公務員希望者に対する朝自習や対策講座が機能し、昨年度を上回る合格者を出すことができた。 国公立大学合格者が増加したが、補習を行ってはいないものの、十分な学力をつけさせるには至っていない。	進学希望者に対しては、学力向上のため、1年次から添削指導や問題集の精選など学年を越えた連携、取り組みが必要である。 模擬試験では事前の指導や事後の活用（復習）など関係教科の協力で更に効果を上げられると考える。 新たな評価方法が導入される2021年度大学入学者選抜への対応を具体的に検討し、できるところから準備や指導を始めていくことが求められる。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
保健部	1 健康・安全に対する基本的な生活態度・習慣の育成	B	・外部からの依頼で3年生を対象に「お薬手帳について」の講話を行ったが、内容が薬物乱用防止に近いので、どうなのかなと疑問に思った。  ・性教育講座・薬物乱用防止教室・DV予防セミナーは、予定通り実施したが、1年生対象の心肺蘇生の研修はできなかった。	・こちらから要請できるかはわからないけれど、来年もやるのであれば、お薬手帳の必要性とメリット等に絞ってお願いしたい。  ・消防署との交渉が必要になるので、年度の早い時期に計画を立てる。
	2 健康管理のための個別指導の推進	C	・特別支援に関する研修会や会議を開き、ある程度効果を上げることができた。  ・インフルエンザ等の人数を正確に把握できない。  ・ケガに関する調査を実施し、まとめたものを保健委員が学校保健委員会で発表した。時期が12月だと遅いので、3年生に情報を提供しづらい。	・これからも多様な生徒が入学してくると思うので、アンテナを高くして早め早めの対応をする。  ・昨年度も書いたが、欠席の人数等を記入する黒板やホワイトボードを設置してほしい。担任も出席簿に確実に記入してほしい。  ・時期を早め、要旨を生徒にフィードバックできるようにしたい。

	3 学校環境の整備	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習棟のトイレのゴミ箱に、缶やペットボトルを捨てているという苦情があった。</li> <li>・学期の始めと終わりにモップ交換をしているが、予算がなくて洗濯が難しいと言われた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貼り紙をしたり、クラスで注意を促してもらって改善したので、問題が起きたら、迅速な対応を心がける。</li> <li>・最低限必要なものは、経費節減でもきちんと予算を確保してほしい。</li> </ul>
【教育相談】 ・生徒への適切な対応で、問題の深刻化を防止する	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係分掌主任との情報交換会を実施し、生徒の情報共有はできたが、効果の上がない生徒もいた。</li> <li>・女子の面接週間を年2回実施し、問題の把握に役だった。しかし、インフルエンザの影響で、尻すぼみの感は残る。</li> <li>・グループエンカウンターを1クラスで実施したものの、効果の程はよくわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が深刻化しないよう、早期対応ができる体制を継続する。</li> <li>・継続して実施したい。</li> <li>・クラスから要請があれば、手法を含めて検討したい。</li> </ul>	

分掌	目標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
警防部	1 防災と安全意識の向上 1) 学校の安全点検の実施 ①室及び設備等の定期安全点検の実施。(毎月実施)  2) 防災のための確かな避難行動等を考えさせる指導 ②地震・火災を想定した実践的な避難訓練の実施。  ③危機管理・避難所開設対応マニュアルの周知と充実を図る。	B	平成29年度の運営上の反省点  毎月適切に実施されている。担当者が点検実施期限より遅れている職員に呼びかけ完了させている。室管理は手分けして実施の為、忘れがちな職員がいる点が残念。 設備の不具合等の記載があった箇所については、事務に迅速な対応をして頂いた。  1 回目は地震及び火災の総合訓練、2 回目はシェイクアウトと2回実施したが、防災教育にかける時間は概して不足である。 シェイクアウト 2018 では教科担任による指導がなされた。プラスα避難訓練で実習室から実習の班単位で避難したクラスもあり、1回目と違うことができてよかった。	平成30年度への改善点と提言  点検実施を周知し、遅い職員には早めに呼びかける。  授業確保との兼ね合いで回数を増やすかどうか検討が必要である。  この時期の単独実施はやりにくく継続が望ましい。  不審者対応も今後はしっかりとした、マニュアルを作成する必要があると思われる。  緊急メールの登録は、年毎に登録対象者が入れ替わるが、登録率を100%に近づける。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
図書視聴覚部	1 学校の資料センターとしての機能の充実	B	図書の配架、既存の資料の取捨選択を継続し、機能の充実に努めている。	基本図書及び生徒・職員の希望に配慮した図書購入、雑誌の選定の見直しを引き続き行う。
	2 生徒の読書活動及び利用の活性化	C	『図書館便り』、廊下への掲示等による情報発信、新入生への図書館オリエンテーション、作文指導のための読書指導、調べ学習での利用等で利用率は伸びている。 図書局員は古本の買い付け、学年文庫の選定、配架の整備、学校祭等で積極的に活動した。	『図書館便り』の発行回数を増やす。 利用者が固定化しているため、多くの生徒・職員に利用してもらえるよう図書館内外での広報活動を続ける。 生徒に読ませたい本を積極的に募り、購入を進める。 朝読書に取り組んでいる学年との連携を工夫する。 学級文庫を創設し、図書局員に本の選定と貸し出しの管理をしてもらう。
	3 視聴覚機器活用の充実	B	教育情報部と連携し、校内に散在していた視聴覚・教育情報機器を印刷室のロッカーにまとめ、貸し出し簿で管理することにした。 校内の機材がわかりやすい位置にまとめ、利用者が増えた。	利用しない機器、古い機材の廃棄を進める。 VHS テープのような古い教材をどのように処理するのか検討を進める。  ※円滑な業務を行えるように図書補助を常駐させて欲しい。 ※司書教諭の授業の軽減をお願いしたい。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
研 修 部	1 研修の充実	B	中堅教諭等資質向上研修、初任者研修、これからの運動部活動の在り方講座、情報教育校内研修推進者養成研究講座、養護教諭が行うフィジカルケア研修講座、SOLIDWORKS から始まるデジタルワールド、二級建築士製図（二次試験）指導法と研修講座を受講し、内容を職員会議で伝えた。	研修で体験したことを報告し、その内容を聞いた先生方が納得し、実践に繋げるように工夫する。
	2 校内研修授業の活性化	B	校内研修授業での意見を示します。 ・グループ活動も積極的に、協力して文章を作ろうとしていた。 ・学習環境（机の整頓、通路の荷物、ゴミ箱）の整備がきちんとされていた。 ・普段からの落ち着いた丁寧な指導、「わからない」と言える生徒との信頼関係や、雰囲気の良いができていた。 ・タイマーを使用することで、時間の配分が上手にできていた。 以上のような研修の成果は得られた。 改善点や参考になった点を今後の自分の授業に生かし、常に発展していくという気持ちを持ち続けたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5Sの実践で、社会で生活基礎を身につけた生徒として成長させたい。</li> <li>・求められる資質能力は、学びに向かう力、人間性の育成、知識技術、思考力、技能である。これらを踏まえ、生きていくための知識技能、やる気を持たせ生徒を伸ばしたい。</li> <li>・疑問追求型発問をさらに進化させたい。</li> </ul>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
機 械 科	1 学習環境の整備と主体的な学習態度の育成	C	1 5Sを意識して授業の始めに学習環境の整備に努めた。科目によってはノートやプリント課題の指導も適切に行われ、生徒の意欲の向上に努めた。家庭学習が行われるように宿題を課す科目もあったが全体的に主体的な学習習慣確立まで至らなかった。実習でメモを取りながら説明を聞く習慣は少しずつ身についてきている。科集会や講演会でもメモを取りながら話を聞くことができるようになった。多くの生徒はレポート等の提出物の期限をしっかりと守ることができたが、特定の生徒が提出日を守ることができなかった。	1 5Sを生徒にさらに強く意識させるために、教師側が常に言葉などで働きかける必要がある。メモを取りながら話を聞く習慣は大切なことなので、今後もその指導を続ける。レポートの提出期限厳守については概ね良好なので、その内容の指導をさらにしっかりと行う。
	2 進路希望の実現と資格取得の奨励	A	2 進路実現に向けて早期に進路面談をじっくりと行い、順調な結果となった。資格取得において1年次から意欲的な受験が見られるようになった。補習もほぼ毎日実施したが、生徒は意欲的に参加した。自動車産業企業研究会や企業採用担当者講話を今年も効果的に実施でき生徒の進路意識の高揚に努めることができた。	2 1年次後期から技能検定にチャレンジしようとする雰囲気を次年度以降も継続したい。 進路指導については、早期の進路面談を充実させ、学年部と協力しながら進路意識を高める取り組みをさらに工夫し、希望進路達成を引き続き目指したい。
	3 基本的な生活習慣の育成	B	3 科集会や実習前の整列指導で基本的な生活指導や整容指導を行った。科集会は生徒指導の観点から大変に効果的であった。機械科職員全員がまとめて生徒指導にあたることができた。また、欠席の少ない学校生活を送らせることができた。あいさつも比較的良好であった。	3 実習前の整列指導や科集会を大切にし機械科全職員で生活指導を行う。各学年の発表も引き続き行い言語活動に力を入れる。欠席の少ない学校生活を送らせるよう学年部と情報共有を密にして連携を強める。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
電 気 科	1 意欲的な学習態度の育成	C	1) 授業を大切にし、特に電気基礎の理解度を深め、定着を図る。 ・1, 2年とも両クラスの担当が進度の連携をとりながら指導した。 ・電気基礎は、内容を精選され指導はしているものの、標準テストを視野にすると依然として時間が足りない状況であった。 ・かねてからの懸案であった電子コースのカリキュラムを変更した。 ・ICT活用事業で、「テクノス秋田」さんが1・2年生の実習を行ってくれた。	・毎年第一に挙げている重点目標であるので、教材開発等において地道に取り組んでいきたい。 ・電子コースのカリキュラムを変更したが、検証を継続したい。 ・ICT活用事業は来年度も実施したい。



	<p>2 各種資格の奨励と希望進路の実現指導</p>	C	<p>2) 各種資格試験に挑戦させ、進路実現へ向かわせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2種電気工事士は、2年生のソフトテニス部以外の全員が受験し、合格者が上期20名・下期28名で73.8%の合格率で、例年になく良い結果であった。</li> <li>・第1種電気工事士は、2年生1名、3年生3名が合格した。</li> <li>・3年生の進路については、国立の進学者が復活し、就職に関しても例年以上に頑張ってくれた。新規開拓の事業所に数名内定したが、後輩が続けられるよう頑張してほしい。</li> <li>・今年度も課題研究で技能検定の電子機器組立てに挑戦し、6名が合格した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2種電気工事士は、早いうちから取得意識を高める指導が必要で、例年通り1年生の3学期から取り組みを始めたい。来年度も部活動を考慮に入れて2年生全員受験を目標に上期と下期を選択させたい。</li> <li>・来年度から1種及び2種が秋田市での受験が可能となったので、特に1種の対応を考えたい。</li> <li>・今年度と同様に、情報関連の資格取得に対する意欲を高めていきたい。</li> </ul>
	<p>3 充実した高校生活の支援</p>	C	<p>3) 「ものづくり」に興味・関心を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年も大曲仙北電気工事共同組合の青年部主催で「技術交流会」が実施され、1年生全員が電気工事業の説明を受けたり高所作業車に乗るなど、理解を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学業成績もさることながら、資格取得や部活動を頑張った生徒が進路実現を果たしているので、今後とも指導を充実していきたい。</li> <li>・実習設備に関して、測定器の故障や不備が出てきている。認定校の絡みもあり、今後も強く要望していきたい。</li> </ul>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
土木・建築科	1 自主的な学習態度の育成	B	授業態度、取り組み姿勢に関しては、少し気になる生徒はいるものの総じて問題はなかったと感じる。家庭学習の定着を図りたい。	授業態度等で気になる生徒は個々に指導を行う。家庭学習に関しては各教科担任から定期的に課題を出すなどお願いしたい。
土木・建築科	2 基本的な生活習慣の確立	B	特定の生徒が授業中の居眠りなどをする傾向にあり、その都度、注意を行った。	保護者や部活顧問の協力を得ながら、地道に指導を行っていく。
土木コース	3 資格取得の奨励	B	施工技術者試験の合格率は県内の土木系では良好である 測量士補に関しても合格者が増えてきている。	<p>2年生から施工試験が受験できるようになり、2年次での合格に力をいれ、合格率も悪くないが、本来の授業に影響がでないように考える。</p> <p>※特活で入学した生徒に学習意欲の点で問題のある者がいるので、部活顧問、担任と協力していく。</p>

分掌	目 標	自己 評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
土木・建築科  建築コース	1 自主的な学習態度の育成	B	○教具・視聴覚教材・学習資料等を工夫することにより、建築に興味・関心を持たせる授業づくりに努めてきたが、全生徒に自主的な学習態度を育成することは難しかったように思える。また、生徒へのレポート提出や調べ学習などを授業に取り入れている職員もおり、家庭学習の習慣づけができるよう、今後は全職員が心掛けていきたい。	○学習形態、授業の進め方、教具・視聴覚教材・学習資料等を改良して、全員が建築に興味・関心を持って積極的に参加する能動的な授業を展開していきたい。 ○自主性・積極性等が評価に繋がる評価方法を工夫して、学習意欲の向上を図っていきたい。 ○レポートや調べ学習の機会を増やして、家庭学習の習慣づけをしていきたい。 ○校外の建築教育力を活用して、自主的な学習態度の育成に繋がりたい。
	2 基本的な生活習慣の確立	C	○良好な生徒は多いと思われるが、一部の生徒に対して、服装・頭髪・挨拶・表情・言葉遣い・時間管理・持ち物管理・教室の環境整備・期限内提出等の基本的な生活習慣を確立させることが難しかった。また、朝の校門指導では、土木・建築科の生徒の登校が遅いのが目立ち、遅刻間際の生徒もいる状況なので、遅刻者への対応について、考えるべきであった。	○企業の人事担当者等から社会で求めている能力を持った人物像について指導してもらう機会を設定したい。 ○生徒指導部・学年部・教科担任・部活動顧問等と連携して、根気強く継続的に指導することにより、社会で仕事をするために必要とされる性格・考え方や及び実際に行動し成果をあげることができる人物に変容させていきたい。
	3 資格取得の奨励	C	○CAD検定3級：今年度は難易度を1つ上げて3年建築コース21名が受験し、19名の合格であった。全員合格できず残念である。 ○2級建築施工管理技術検定学科試験では自己採点ながら、21名受験中、7名が合格ラインにいる状態である。昨年度から、施工管の試験の学科受験年齢の引き下げもあり、在学中に挑戦させる資格を建築施工管に絞り、2年次から施工管の資格に挑戦させ、機会を増やし、希望者全員合格を目指していきたい。	○指導する教員も限定されており、挑戦させる資格の数を欲張らずに、各科目の授業と資格試験の内容が連動した指導方法、朝自習や週末課題、補習等の自学自習を支援できる指導方法を考えていきたい。施工管の試験が11月のため、すでに進路が決定しており、専門分野へ就職や進学しない生徒のやる気が他の生徒と比較すると物足りなさを感じ、今後は全員受験ではなく、希望者のみの受験や2年生からの受験も視野に入れて考えている。職員全員が協力して、希望者が全員合格出来るよう、指導していきたい。また、設計コンテストやデザインコンテストにも挑戦できる機会を多くして、建築分野への興味・関心を喚起し、1人でも多く専門分野への就職や進学を希望する生徒を増やしていきたいと考えている。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
国語科	1 国語力の定着と向上を図る。	C	1 各学年ともクラスにより多少の差はあるものの、概ね積極的に授業に参加しようという姿勢が見られる。基本的な漢字の能力の読み書きの定着を図るため、週末課題と連動した小テストを実施するサイクルを徹底することができた。一方で、3年生の進路活動時の書類作成の段階になって国語力不足が見られる場合も少なくなく、その場限りの知識ではなく生涯にわたって必要とされる力であることを長期的な視野で意識させる必要がある。	1 年生の基礎学力向上補習における課題として、自学の手法を確立できるような課題を用意できるよう工夫を続けたい。また、各学年部や進路指導部と連携し、実際に求められる文章作成能力を具体的な事例や書類を示しながら指導する機会を検討していきたい。
	2 生涯にわたって学習し続ける基礎を身に付けさせる。	B	2 現代文 B においては現行の使用教科書を用いて二年目になるが、様々な文章をバランスよく扱うことができ、内容・様式共に幅広い分野への興味関心を喚起することができた。	他教科との連携や関連資料の提示などにより、国語が様々な学習の基礎となっていることを実感させる機会を増やしたい。また、「話すこと」を意識した授業展開には機会そのものの増加を含め改善の余地があるため、本校の進路状況などに即して指導計画を改善したい。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
地歴・公民科	1 基礎的・基本的事項の定着を図る。	B	小テストやプリント回収、長期休業中の課題学習等によって、概ね定着を図ることはできたと感じる。	公務員やセンター試験を必要とする生徒へ、継続的で個別的な対応をどのように進めていくか。
	2 社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	B	授業中に国際情勢を意識させるような問いを投げかけ、国家・政治・平和等について考えさせる機会を多く持つように努力した。 今年度は18選挙権導入後、初の地方選挙が行われたが、生徒の多くが投票に行ったようであり、参政権の指導の成果はあがっていると思う。	調べ学習、グループ学習、発表学習の効果的な指導法についての研究を深める。

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
数学科	1 数学学習に取り組む主体的な態度を育成する。 1) 家庭学習の定着をはかる ①家庭学習の成果(提出課題等)を丁寧に評価する。	A	数学の興味深さ・便利さが授業を通して感じられるような展開を工夫し、生徒が学習に主体的に取り組むことが出来るような意識付けが出来た。 家庭学習の評価方法として「課題の提出」と「小テストの結果」を採用した。課題は提出率が高く、小テストの合格率も高かったことから、授業時間以外での学習を継続させられることが出来た。いっぽうで課題の提出確認やテストの採点などに関わる処理業務が増加し、教材研究にかける時間を確保	進学希望者や数学に興味がある生徒については、一年生の夏休み以降から添削指導などでさらに学習に取り組む姿勢を身につけさせたい。数学検定の問題や大学入試の問題等を扱うことで、検定の受検者も増やすことが出来るのではないかと考える。 課題の提出チェックやテストの採点なども、生徒が自らやっていくという姿勢にシフトさせていき、単純な処理作業の増加は解消したい。

			<p>することへの障害になりつつある。自ら首を絞めている実感もある。</p>	
<p>2 基礎的・基本的事項の定着をはかる</p> <p>2) 基礎技能を向上させ、数学的思考力の育成を目指す。</p> <p>②授業中の基礎基本事項の振り返り機会を増やす。</p> <p>③数学文の書き方や説明・発表等の言語活動の指導を強化する。</p>	B	<p>授業や復習課題などを通して基礎基本事項を振り返る機会は増やすことが出来ている。</p> <p>小テストの定期的な実施と、不合格者への再テストの粘り強い実施によって、苦手な生徒についても基礎基本事項の定着を概ね達成することが出来た。</p> <p>言語活動の指導については時間のかかることでもあり、いまだ道半ばである。教師側が粘り強く取り組むしかない。</p> <p>校内研究授業で見せてもらった教具は、生徒の考えを視覚化でき効果的であると感じた。科内で共有しよりよいものにしていく時間の確保が出来なかったことが反省点である。</p>	<p>小テストの実施回数や範囲などを工夫し、より効率的・効果的に実施できるようにしなければならない。小テストが形式的にならないように注意していく。</p> <p>言語活動の指導については、継続して根気強く育てていくしかない。生徒との些細なやりとりから言語活動説明・発表力の強化につなげていきたい。</p> <p>授業で扱う教材や教具などを科内で共有する機会を設けたい。指導方法についてもお互いにアイデアを出し合うことで同じクオリティの授業が提供できるようにしたい。周に1回程度でも定期的に科会を設ける努力をしたい。</p>	

分掌	目標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
理科	<p>目標1 理科に対する興味・関心を高める (重点) 科学的な考え方やイメージを大切にする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な観察や実験を多く取り入れたことで、学習に対する生徒の興味関心を高めることができた。しかし、観察や実験の評価に十分な時間をかけることができなかった。(B)</li> <li>・視聴覚教材を利用したり、教材となる模型を工作させるなどして、科学的なイメージを抱きやすくした。(A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に提示する教材を精選し、観察や実験の評価に必要な時間を確保する。</li> <li>・ものづくりを意識した、授業に生かせる工作物などの開発に力を入れる。</li> </ul>
	<p>目標2 生徒に授業の目標を明確に提示する (重点)教材の重要項目を明確にする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入時に生徒が発表(予習内容)できる機会をつくり、生徒が本時の目標に興味関心を高められる工夫を施した。自分の考えを自分の言葉で表現する力が着実に身についてきた。(A)</li> <li>・プリントやICTを活用して、教材の重点項目がうまくまとめられるよう心がけた。内容が盛り沢山になり、目標達成の確認が不十分であった。(B)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉だけの発表で終わることがないよう、図表や映像を用いた発表ができるような環境を整える。</li> <li>・授業の達成度に基づいた課題を生徒自らが設定できるような工夫を考える。</li> </ul>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
保健体育科	①基礎体力の向上・運動技能の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの結果を基に授業の導入部分で補強運動を実施し、体力向上への意識付けをすることができた。男女差や個人差があり、取り組む姿勢にばらつきがあるので研修が必要である。</li> <li>・授業に取り組む姿勢はとても積極的で良い。意識も高く、運動技能の向上も見られた。</li> <li>・学校指定以外のジャージを着用する生徒が若干見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が楽しみながら基礎体力を向上させる方法を調べながら、生徒に提示し意欲の向上を図りたい</li> <li>・体力の必要性、運動の大事さを保健や体育理論の分野などを活用し生徒への理解を図りたい。</li> <li>・役割を協力しながらゲームを展開できるように指導していきたい。</li> <li>・学校指定のジャージを着用するように徹底したい。</li> </ul>
	②健康の保持増進及び安全に対する意識の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の問題としてとらえられる単元では、取り組み方が積極的であるが、興味がない単元では消極的になってしまうことがある。しかし、生徒同士で話し合う機会を設けたことで意見交換が活発になり理解を深められた。</li> <li>・自分の健康の管理に関して、まだまだ関心が薄い生徒が多い印象がある。生活振り返りシートを活用し、生活や部活動、健康づくりに関連づけ考える機会を与えながら展開してみたが個人差が大きい。やるべきことや、やらなければならないことの理解は少しずつできているように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元に関連している情報（新聞、ニュース、ビデオ）等を活用し、イメージしやすい環境を作り、自分の生活との関係性を高められるよう工夫したい。理解した知識を日常生活での行動に移せるよう働きかけていきたい。</li> <li>・睡眠、運動、食事の大切さは理解できているが、ゲームや携帯電話が普及し、基本的な生活習慣を確立できない生徒がまだ見られる。今後も生活振り返りシートなどを活用し、生活のリズムをつかめるよう工夫していきたい。また、理解した知識を日常生活に生かしていけるよう働きかけていきたい。</li> </ul>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
芸術科	1 基礎・基本の定着	B	<p>授業開始や終了におけるあいさつやマナーが良く、学習時間を有効に設定することが出来た。教師と生徒相互の能動的な意見交換がなされ、主体的に学習する雰囲気作りがなされていた。</p>	<p>歌唱に対する意欲はあるものの、学習内容の定着と維持に少し課題が残る。授業を離れても学習内容の関心を維持し、自発的な感性を大切にしたい。で伸び伸びとした発声によって歌唱が無理なく出来るようにする手立てに研究が必要である。より親しみやすい題材と興味・関心を深める発問・指導を心がけたい。</p>
	2 自己表現力の伸長	B	<p>歌唱・器楽いずれの分野にも集団としての表現に積極的な取り組みがみられた。</p> <p>また、生徒相互の活発な意見交換により、鑑賞活動が充実した。音楽を取り巻く環境などにも考察を深めることが出来ている。</p>	<p>技術の定着と共に曲想（時代様式）などを感性でとらえ、表現活動に生かしていく鑑賞のあり方を研究したい。</p> <p>また、楽譜の使用を積極的に行い、視覚と聴覚を総合的に感受する手立てを考える必要がある。</p> <p>個々の表現能力の差を苦手意識を持たせずに、鑑賞活動における「考える力」を明確に評価し、充実感をもたせたい。</p>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
英語科	1 基礎力の定着と自己表現力の向上	C	<p>基本事項を繰り返し指導する中で、徐々に基礎力はついてきていると感じている。各学年でリスニングやリーディングを含めてパフォーマンステストの機会を増やしていきたい。</p> <p>学年が上がるにつれて学習意欲の弱い生徒が増えてくるので基礎学力を定着させるのに苦労している。</p>	<p>中学英語の基本に立ち返り、家庭学習につながる授業展開や小テストの活用を工夫していきたい。また、ミスを恐れず発信する態度の育成も必要である。</p> <p>進学者対策と下位者対策を学年部と連携し具体的に講じる必要がある。</p> <p>語彙力、文法力向上のため副教材の具体的な活用が求められる。</p> <p>工業英検の平日実施を検討したい。</p>
	2 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成	C	<p>インタビューテストや Show &amp; Tell は生徒が自分の考えを発表し、英語力を確認するよい機会になった。</p> <p>TTの時間には積極的に取り組む生徒が多いが、年間を通して計画的な授業を行うことができなかった。</p>	<p>教員自ら英語の使用頻度を高め、生徒が自然に英語を使えるような授業環境作りをしていく必要がある。</p> <p>生徒が英語で活動する具体的な場面設定をし、コミュニケーション能力向上につながる指導法を研究、実践する必要がある。</p>

分掌	目 標	自己評価	平成29年度の運営上の反省点	平成30年度への改善点と提言
家庭科	1 基礎・基本の定着	B	<p>学習内容の目標明示・自己評価を毎時間実施したことで、授業のポイントを意識して学習している姿がうかがえた。また、考査前に対策プリントを配布したことで、知識面の基礎・基本の定着に効果があったと感じている。しかし、考査点数に表れない理解度について、今後もっと授業展開や教材を工夫して深化させていきたい。</p>	<p>今後は、実践的な基礎・基本の定着を図るため、もっとグループ活動や体験活動を実施して様々な視点や考えを交換する場を設けたい。</p>
	2 実践力を身につけさせる	C	<p>実験・実習は積極的に主体的に活動している生徒が多いが、生活に活用しようとするレベルには達していないと感じる。将来の糧となる知識・技術はもちろんであるが、「自立」を見据えてすぐ実生活に活用したくなるような気づきや発見などがある授業づくりを研究したい。</p>	<p>主体的な学びとなるような授業内容・教材の工夫をしていきたい。また、実生活への活用をイメージできるような体験活動・グループ活動をもっと取り入れ、記憶に残る授業作りをしていきたい。</p>